

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 22年 2月 18日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0170501480		
法人名	有限会社 ケイアンドケイ		
事業所名	グループホーム ほほえみ		
所在地	札幌市白石区平和通15丁目北2-12 (電話) 011-863-5511		
評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	平成22年2月17日	評価確定日	平成22年2月25日

## 【情報提供票より】(平成 22年 1月 15日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 14年 4月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 13人、非常勤 4人、常勤換算	14.4人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート壁式 造り		
	2 階建ての 1~2 階部分		

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費:18,000円 暖房費:6,000円(11~3月)	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	400 円
	夕食	500 円	おやつ	100 円
	または1日あたり			円

### (4) 利用者の概要(2月 17日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護 1	2 名	要介護 2	4 名		
要介護 3	6 名	要介護 4	4 名		
要介護 5	2 名	要支援 2	0 名		
年齢	平均 85 歳	最低	74 歳	最高	94 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	紺野整形外科クリニック、にひら歯科院、クラーク病院、北榆病院
---------	--------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

市内の閑静な住宅街の、近くには川も流れる自然環境に恵まれた場所にあるグループホームである。建物はグループホーム向けに設計され、1階が洋風、2階を和風とし、中庭のような玄関ホールがあり、共用空間が広く小上がりもあり、スタッフルームから全体が見渡せる造りである。利用者の詳細なアセスメントに基づき1ヶ月ごとに介護計画を見直しており、自己評価の作成や外部評価の対応にも真摯に取り組んでいる。また管理者を中心に職員全体で高い意識を持ち、内部研修を企画したり外部研修に積極的に参加し、サービス向上に活かしている。利用者とはともに明るく笑顔で過ごし、互いにコミュニケーションがよく取れている。職員は、毎月個別に利用者家族に手紙を書いて報告しており、利用者のペースに合わせた日々の介護が提供されている。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前年の外部評価の「取り組みを期待したい項目」については職員間で具体策を検討し、家族への報告や災害時の協力体制などの面で改善に取り組んでいる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は各職員に評価表を配布して取り組み、サービスを客観的に見直した上で各ユニットで取りまとめている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は2ヶ月に1度開催し、町内会長、老人クラブ役員、地域包括支援センター職員、民生委員、利用者家族などの参加を得ている。運営報告のほかサービス評価、避難訓練、虐待などをテーマに意見交換し、議事録も整備している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族の来訪時や運営推進会議にて家族の意見を聞くようにしている。玄関に意見箱を設置しており、重要事項説明書に外部の苦情受付機関も明示している。また、行事を行なった時に家族にアンケートを実施することもある。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	町内会に参加し、地域の盆踊りやお祭り、災害訓練などに参加している。畑の作物を差し入れてくれたり、折り紙や絵葉書を届けに来てくれる方もいる。近所の理容店を利用したり、児童を守る「防犯協力店」として協力する関係で小学生の訪問も受けている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所の理念の中に「住みなれた地域の中で家庭的な雰囲気」を重視しながらサービスを提供するという文言があり、地域密着型サービスとしての独自の理念を作り上げている。また理念のほかにユニットごとの年度目標を立てている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所理念は玄関や各ユニット共用部分など目立つ場所に掲示している。カンファレンスや申し送り、実際のケアの場面で理念を念頭に話し合ったり、理念を意識してサービス提供を行なっている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に参加し、地域の盆踊りやお祭り、災害訓練などに参加している。畑の作物を差し入れてくれたり、折り紙や絵葉書を届けに来てくれる方もいる。近所の理容店を利用したり、児童を守る「防犯協力店」として協力する関係で小学生の訪問も受けている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は各職員に評価表を配布して取り組み、サービスを客観的に見直した上で各ユニットで取りまとめている。前年の外部評価の「取り組みを期待したい項目」についても職員間で具体策を検討し、家族への報告や災害時の協力体制などの面で改善に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1度開催し、町内会長、老人クラブ役員、地域包括支援センター職員、民生委員、利用者家族などの参加を得ている。運営報告のほかサービス評価、避難訓練、虐待などをテーマに意見交換し、議事録も整備している。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	2ヶ月に1度、市主催の管理者会議に参加しており、ホームの運営推進会議に地域包括支援センターの職員の参加も得ている。事故報告を市役所に持参したり、外部評価の課題に対する取り組みや後見人制度の利用などを市に直接出向いて報告・相談している。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時に利用者の状況を報告するほか、3ヶ月ごとにホーム便りを作成し家族に送付している。担当者による家族宛の手紙も作成し送付している。金銭報告や職員の異動についても来訪時に話したり、手紙の中で報告している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時や運営推進会議にて家族の意見を聞くようにしている。玄関に意見箱を設置しており、重要事項説明書に外部の苦情受付機関も明示している。また、行事を行なった時に家族にアンケートを実施することもある。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員のユニット間の異動は原則行っていない。止むを得ない理由による職員の離職や異動がある場合は、利用者に伝えてきちんとお別れしているが、過去にダメージが見られたケースはない。またダメージが少なくなるよう引き継ぎ期間を十分取るようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5.人材の育成と支援</b>					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>パートを含めた全ての職員が経験年数や段階に応じて外部研修を受講できるようにしている。また受講した研修の資料はいつでも閲覧でき、会議などで研修報告も行なっている。事業所内でも年間計画を立て、他のグループホームと合同で内部研修を実施している。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者は市・区の管理者連絡会に参加し、合同研修などの際に他の同業者と交流する機会を持っている。一方、職員も他のグループホームとの職員の交換研修などに参加しているが、最近は機会が減っており、参加できる職員も一部に留まっている。</p>		<p>職員も継続的に他のグループホームの同業者と交流機会が持てるよう、管理者同士のネットワークを活用しながら交流活動を企画されるよう期待したい。</p>
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>なるべく利用開始前に本人がホームを見学を訪れ、納得した上で利用を決めている。見学が難しい場合は管理者や総合施設長などが利用予定者を訪問し、事前に馴染みの関係を築いている。止むを得ずすぐに利用開始となる場合は家族に面会回数を増やしてもらうなどして安心してもらっている。</p>		
<b>2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者が職員に昔話や料理の仕方を教えてくれたり、調理の手伝いなどできることをしてくれている。また、職員は利用者に家族のようにやさしく接してもらったり、夜勤明けに「おつかれさま」といたわりの言葉をかけてくれるような場面もある。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>言葉にできない思いや意向についても、蓄積された本人情報を基に表情や行動などから把握している。利用開始時に家族から詳しい情報提供を受けてセンター方式によるアセスメントシートを作成し、その後ホーム独自のアセスメント票も充実させている。</p>		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用開始時のアセスメントに基づき、計画作成担当者が中心となって介護計画を作成しており、計画の中で短期目標、長期目標を詳しく具体的に示している。日々の記録は介護計画を意識し、計画の中の記号を記入しながら記録している。作成した介護計画は家族に説明され、捺印を受けている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>毎月ユニットごとのケアカンファレンスを行ない、各利用者の介護計画を見直し作成している。計画作成者が日々の介護記録の中から介護計画に該当する課題を抽出してケアプラン評価票を作成し、カンファレンスの中で職員が意見交換して次の介護計画に反映している。</p>		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>隣接する同法人経営のグループホームと共同で3台の車を用意し、日常的な買い物や通院などの送迎を行なっている。訪問の理美容を利用したり、ボランティアによるハンドベル演奏の披露も受けている。家族がホームに宿泊する際は寝具や食事を用意している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医療機関による往診を毎週受けている（内科、整形外科各1回）。また週1回の訪問看護も利用している。それ以外の希望する医療機関の受診も可能で、ホームで通院支援を行なっている。受診結果については電話やFAXにて家族に報告している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用開始時に「重度化した場合の対応にかかる指針に関する同意書」について家族に説明し、書類を取り交わしている。その際にホームとして対応可能な範囲を具体的に説明し、家族の納得ももらっている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者にやさしく接しており、誇りやプライバシーを損ねるような対応は見られない。また個人の記録は事務所に安全に保管・管理しており、介護記録の際も注意している。町内会に回覧するホーム便りには利用者の写真は載せないようにしている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな1日の流れはあるが利用者は概ね自由に過ごすことができている。食事の開始時間や食事のペース、起床時間、レクリエーションへの参加などホームの都合を優先せず、できるだけ利用者のペースを尊重している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は必要に応じて介助を行ない、利用者と職員が世間話などをしながら楽しく食事をしている。食事の準備や後片付けを、手伝いが可能な利用者の力を活かしながら行なっている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴することができ、各利用者が概ね2日おきに入浴を行なっている。時間帯は午前が中心となっているが、希望があれば午後入浴も可能で、入浴の長さも利用者の希望に合わせている。拒否がある場合はタイミングを工夫して入浴を促している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備や畑の水遣り、カーテンの開閉、カレンダーめぐりなど利用者はそれぞれの役割を持っている。裁縫や塗り絵、かるたなどの趣味を楽しんだり、「すずらん会」という利用者のサークルを作って隣接する同法人経営のグループホームと交流したり行事で外出している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くの公園やコンビニへ散歩したり、ホームの車を使って外出している。利用者が畑仕事をしたり、近くの床屋に出かけることもある。サークル活動の中で、花見や外食などの外出行事を企画し楽しんでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかける弊害を理解し、日中は玄関やユニット入口に鍵をかけていない。出入口付近に事務所があり、ユニットから玄関への戸には鈴が設置されている。外出がある場合に備えて隣接する同法人経営のグループホームとお互いに注意し合うようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>年2回、夜間と日中を想定した避難訓練を実施しており、職員は定期的に救急救命訓練も受講している。また、隣接する同法人経営のグループホームと災害時に協力する体制を取っている。今後、災害時のマニュアルや備品の準備を行なう予定である。</p>		<p>災害時マニュアルの整備とともに、災害発生に備えて食料や水、簡易トイレなど備品の準備を期待したい。</p>
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>献立は食材提供会社の管理栄養士が作成しており、食事ごとのカロリーや栄養バランスが調整されている。また日々の記録に食事や水分の摂取量を記録し、利用者の健康状態や体重変化に応じて調整している。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用空間には利用者や職員の写真、季節の装飾が施されており、家庭的な雰囲気を作っている。随所に窓があり開放的で明るく、中庭のような玄関ホールもある。温度、湿度なども調整され居心地よく快適に過ごせるようになっている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には、利用者がタンスや仏壇、テレビなど馴染みの品物を持ち込むことができ、安心して過ごせる場所となっている。床暖房が設置され快適な温度が保たれている。また壁にも利用者が自由に飾り付けをすることができている。</p>		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。